

持続可能な食品等の流通に向けて (物流効率化法ほか物流に関する留意点)

I. 食品流通の現状.....	1
II. 改正物効法の概要.....	8
III. 努力義務・判断基準の内容.....	14
IV. 食品流通における対応.....	21
V. 特定荷主の対応.....	52

2025年9月5日
農林水産省新事業・食品産業部食品流通課

I . 食品流通の現状

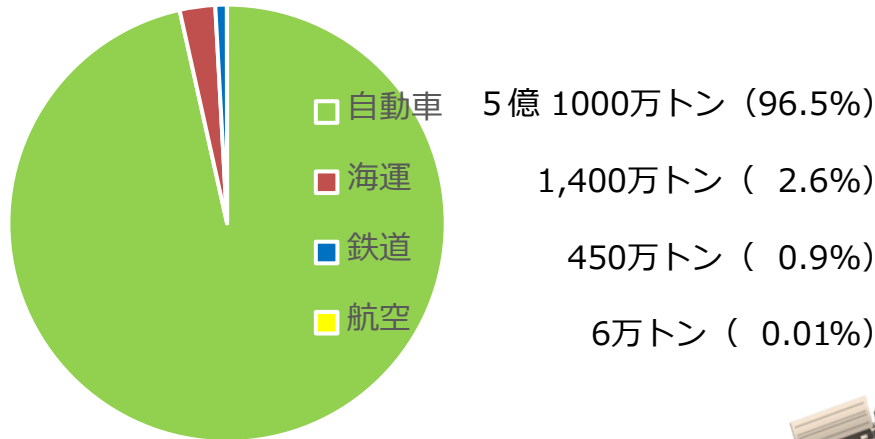
食品流通の物流上の特徴

○ 農水産物・食品はトラックによる輸送が96.5%。物流事業者の負担が大きい品目。

<生鮮品の輸送の特徴>

- ① 産地が消費地から遠く、長距離輸送が多い。
- ② 品質管理が厳しい、ロットが直前まで決まらない等により、運行管理が難しい。
- ③ 出荷量が直前まで決まらない、市場や物流センターでの荷降ろし時間が集中する等により、待ち時間が長い。
- ④ 手積み、手降ろし等の手荷役作業が多い。

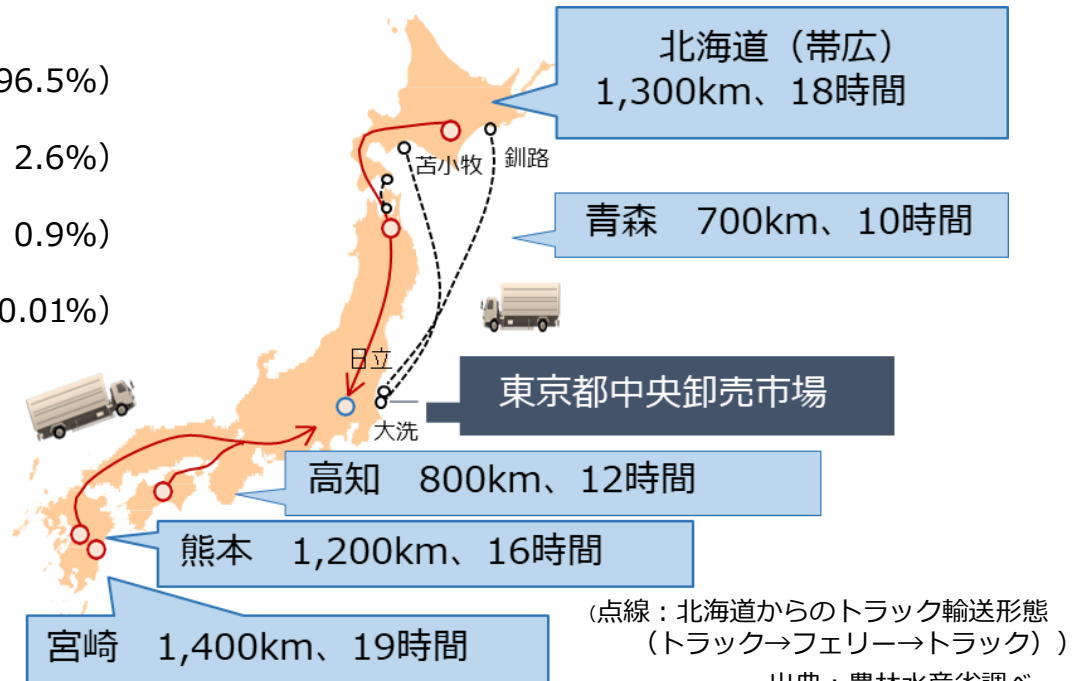
○ 食品流通のモード別輸送形態



出典：国土交通省「貨物地域流動調査・旅客地域流動調査（2023年度）」
「航空貨物動態調査（2022年度）」
「航空輸送統計調査（2023年度）」
JR貨物「2023年度 輸送実績（速報）」

※各種統計における農水産品及び食料工業品の合値を基に農林水産省にて推計したものであり、実数とは異なる場合がある。

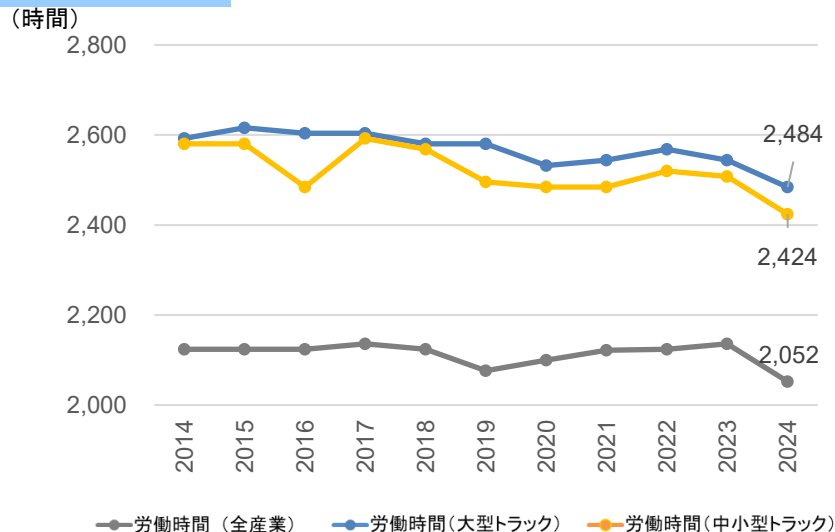
○ 各地から東京までの距離とトラック輸送時間



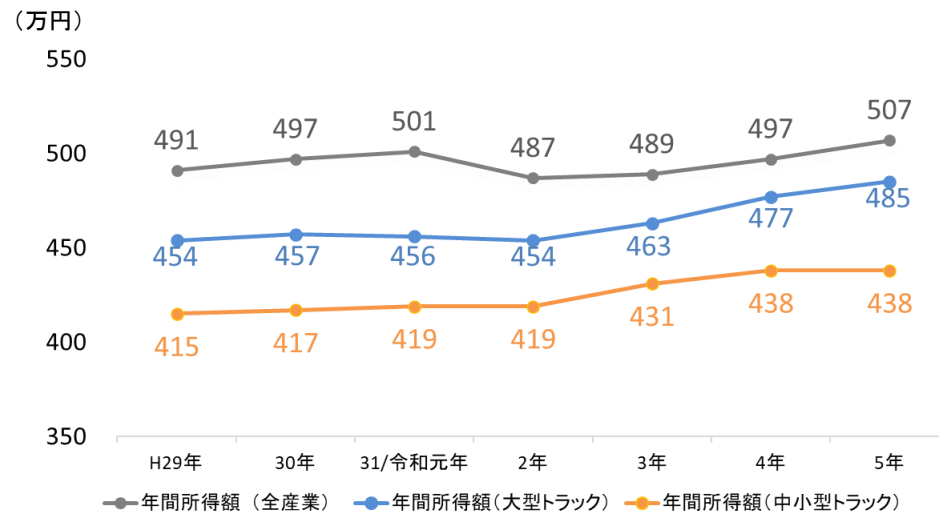
出典：農林水産省調べ

トラックドライバーの働き方をめぐる状況

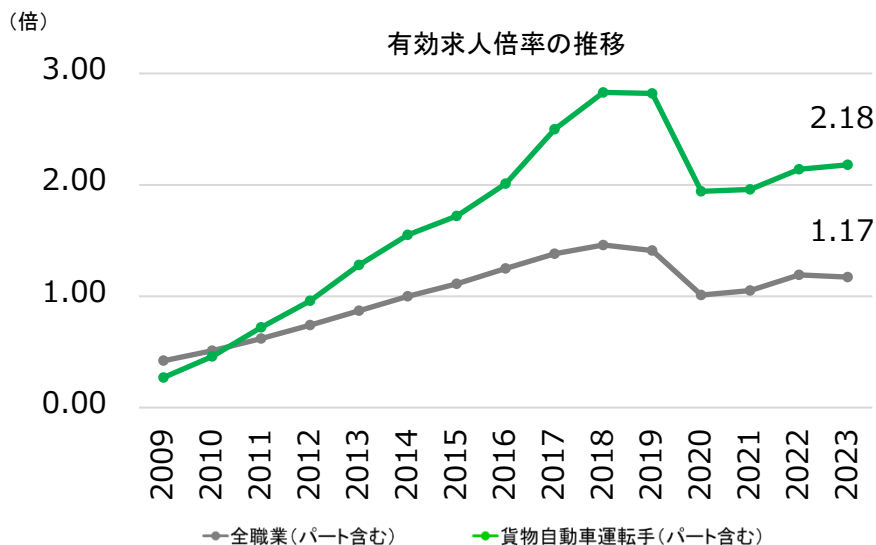
①労働時間 全職業平均より約2割(400h~450h)長い。



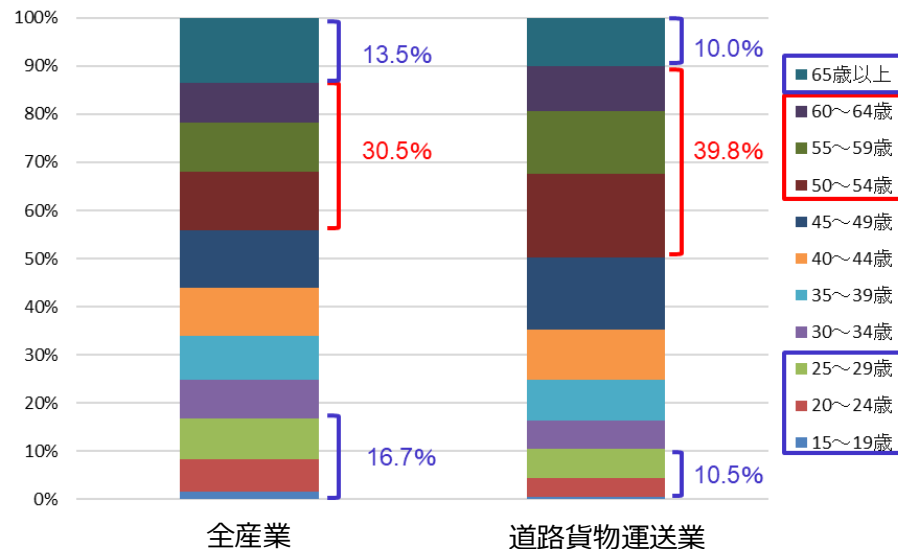
②年間賃金 全産業平均より5%~15%(20万~60万円)低い。



③人手不足 全職業平均より約2倍高い。



④年齢構成 全産業平均より若年層と高齢層の割合が低い。中年層の割合が高い。



2024年度は、積載効率の向上や貨物量の減少がみられた



【第1回 総合物流施策大綱検討会（令和7年5月8日）資料より】

○ 物流の「2024年問題」については、2023年6月に関係閣僚会議で決定された「政策パッケージ」に基づく官民での取組の成果等により、2025年度に入ってから**物流の機能を維持できている**。

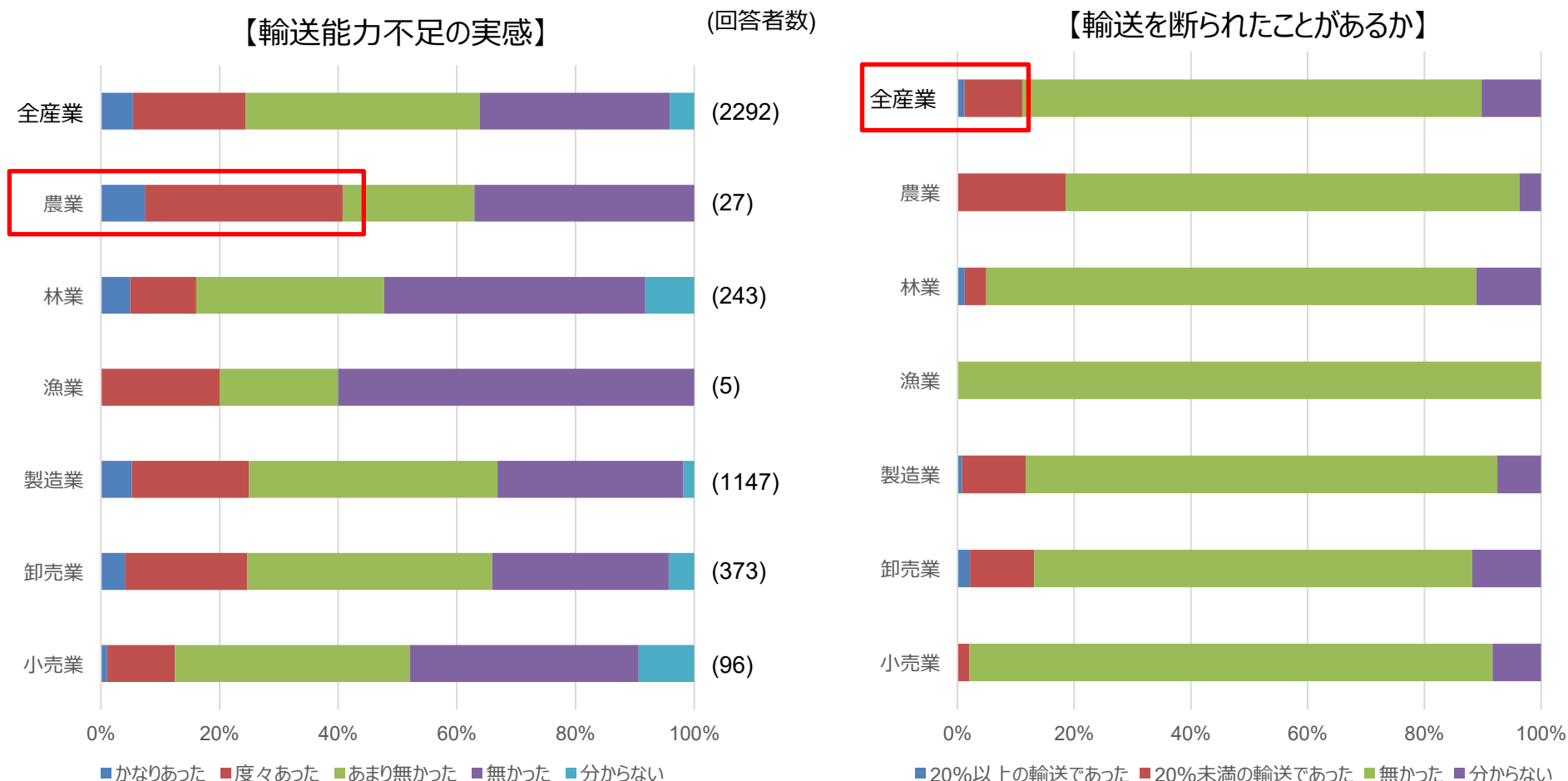
	2024年度			2030年度
	試算※	実績	施策による効果等の考え方	試算
必要輸送力	100	100	(農産・水産品出荷団体は32.5%不足の試算)	100
施策なしケース	▲14	▲14		▲34
施策による効果等	+14.5	+13.6		+34.6
うち荷待ち・荷役の削減	+4.5	+0.0	2020年から2024年にかけて、トラックドライバーの荷待ち・荷役時間は約3時間のまま横ばい。	+7.5
積載効率向上	+6.3	+8.6	2024年4月から11月までの輸送トン扣／能力トン扣を合計した積載効率（輸送トン扣／能力トン扣）41.3%を反映。	+15.7
モーダルシフト	+0.7	+1.3	2022年度の鉄道の輸送量（165億トン扣）と内航海運の貨物輸送量（388億トン扣）の合計値（553億トン扣）を反映。	+6.4
再配達削減	+3.0	+0.9	2024年10月時点の再配達率10.2%を反映。	+3.0
その他の取組 （トラック輸送力拡大等）		+1.4	2024年度の試算に織り込んでいなかった高速道路のトラック速度規制の引上げによる効果を反映。	+2.0
貨物輸送量の変化等		+1.4	2019年から2023年にかけての営業用トラックの貨物輸送量の変化（2019年：28.4億トン、2023年：25.1億トン）等を反映。	

※NX総研試算

農業分野は輸送能力不足の実感が顕著



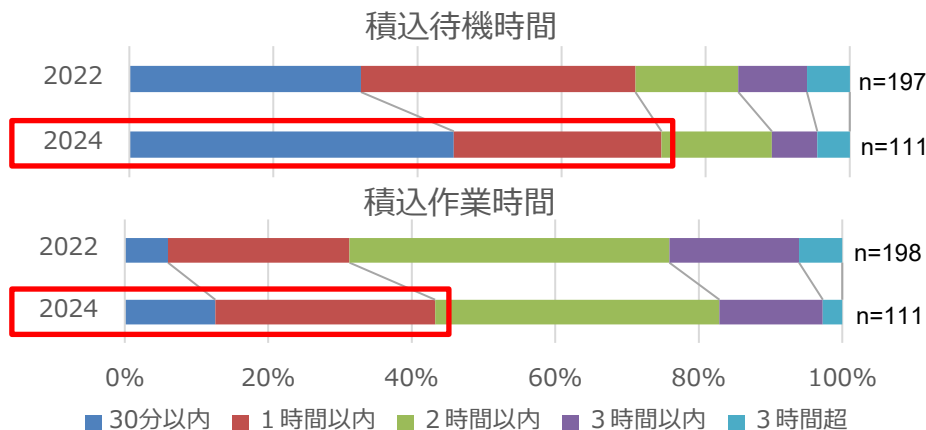
- 回答者数は限られるが、2025年1月の輸送状況について、**農業分野の荷主**において、**輸送能力不足を実感した場面が「かなりあった」「度々あった」という回答は約4割**を占め、全産業平均より高い。
- **輸送を断られたことがあった**という回答が、**全産業総計で約1割**を占め、引き続き物流効率化の取組が必要。



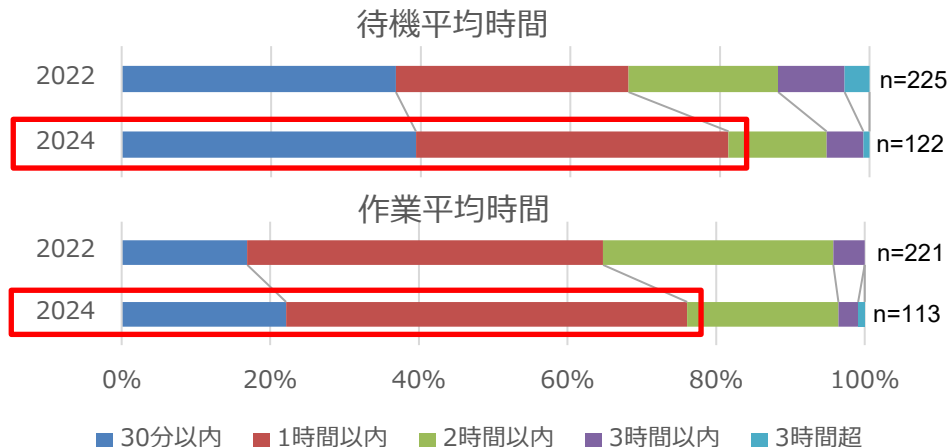
産地・卸売市場の荷待ち時間等は改善傾向、パレット化は道半ば

- 青果物を扱うトラックドライバー向けアンケートでは、**2024年は2022年比で、産地における積込待機・作業時間、卸売市場における待機・作業時間、いずれも1時間以内が増加。**
- 同アンケートでは、**パレット積みの割合はほぼ変わらず、11型が最も多い**との結果。回答者の**7割以上が、発荷主に求めることとしてパレット化を選択。**

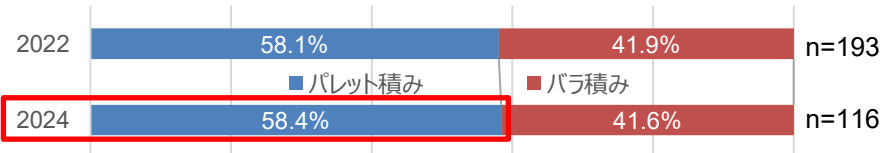
【産地における待機・作業時間】



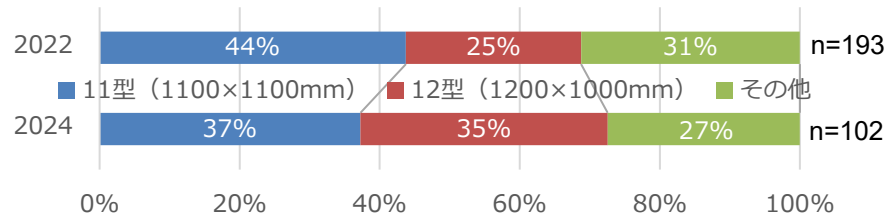
【卸売市場における待機・作業時間】



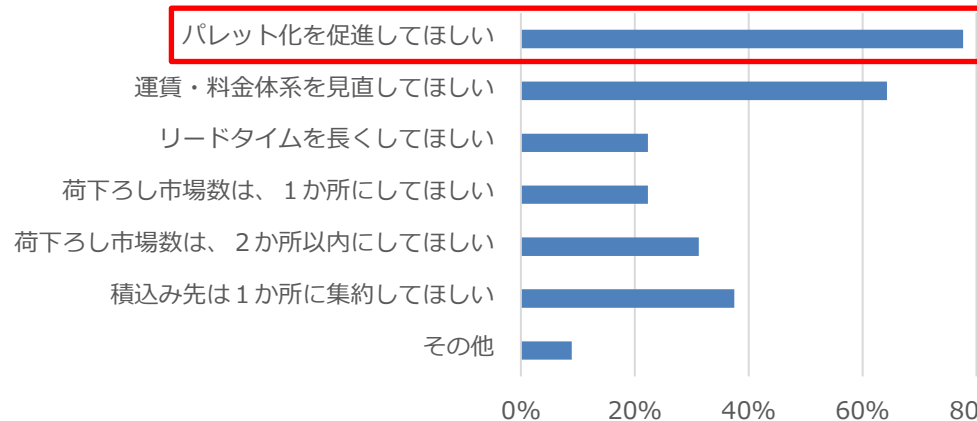
【パレット積みとバラ積みの割合】



【最も使用するパレットサイズ】



【発荷主への要望】



本日お伝えしたいこと

- 食品等を消費者に届けるためには、物流が不可欠ですが、物流費の高騰や輸送力不足の懸念を踏まえれば、**物流の効率化は喫緊の課題**です。
- 物流の効率化には、物流事業者・発荷主・着荷主の間での**連携・標準化**が重要です。物流効率化法は、物流に関わる全ての事業者に努力義務等を課すことで、
 - ・ 自らのトラック事業者との関わりを把握し、可能な物流効率化に取り組むとともに、
 - ・ 単独では解決できない課題を洗い出し、関係者に取組を求めるための枠組みです。
- さらに物流を見直すことで、**省力化や市場開拓**につながることもあります。

倉庫／集出荷施設が
11型パレットに適合し
ていない...
情報管理もアナログ

パレットなら20分なのに
手積みで2時間

出荷規格が多く
伝票が紙なので、
検品に手間がかかり、
ドライバーも待たせる

サイズの違うパレットは
積み替えて保管して
返却するのが負担



取組例

11型パレットに適合した
選果レーンの導入

ロボットパレタイザー、
フォークリフトの導入

伝票の電子化
電子タグの活用

パレット標準化
レンタルパレットの活用